

令和7年度全国学力・学習状況調査 CBT(オンライン方式)での実施に向けた 各学校等での準備について

目 次

- 1 各学校等においてほしい事前準備(概要)**
- 2 中学校等における事前準備の詳細**
 1. 学校ネットワーク・端末等の確認
 2. MEXCBTを使用するための事前準備
 3. サンプル問題（中学校理科）を活用した事前検証
- 3 参考資料**



令和6年12月

文部科学省総合教育政策局参事官（調査企画担当）付学力調査室

1

各学校等にお願したい事前準備(概要)



1 各学校等にお願いしたい事前準備(概要)

小学校等

	オンライン調査 本番の実施日程	オンライン方式で 活用するシステム	小学校等における 事前準備
児童質問調査	4/18(金)～4/30(水)のうち、 文部科学省から指定された日 ※	委託事業者の Webシステム	(令和6年度調査と同様)
学校質問調査	4/1(火)～4/17(木)のうち 任意の日 (実施日の報告等は不要)	委託事業者の Webシステム	(令和6年度調査と同様)

中学校等

(赤字が令和6年度からの変更点)

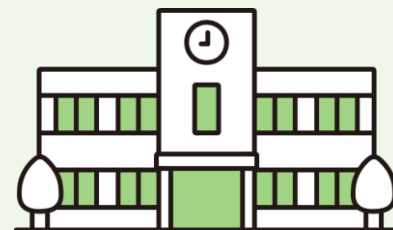
	オンライン調査 本番の実施日程	オンライン方式で 活用するシステム	中学校等における 事前準備
生徒質問調査	教科調査「理科」の実施日と同じ	MEXCBT	(令和6年度調査と同様)
教科調査 「理科」	4/14(月)～4/17(木)のうち、 文部科学省から指定された日 ※	MEXCBT	1. 学校ネットワーク・端末等の確認 2. MEXCBTを使用するための準備 3. サンプル問題を活用した事前検証
学校質問調査	4/1(火)～4/17(木)のうち 任意の日 (実施日の報告等は不要)	委託事業者の Webシステム	(令和6年度調査と同様)

※ 実施希望日を、令和7年1月20～31日で実施するCD調査（各学校等の学校基本情報確認を行う）で調査します。
決定した実施日はWebシステムにてお知らせする予定です。

2

中学校等における事前準備の詳細

- | | | |
|---------------------------|---|----|
| 1. 学校のネットワーク及び端末の確認 | … | 5 |
| 2. MEXCBTを使用するための事前準備 | … | 8 |
| 3. サンプル問題(中学校理科)を活用した事前検証 | … | 11 |



教育委員会・学校は、日頃より学校のネットワークや端末を不具合なく活用できていることを確認してください。

- **教育委員会**は、「学校の不具合情報が共有されているか」「不具合が解消されているか」等の確認の他、このような**不具合が起きていないかを主体的に確認し、不具合の解消に対応**することが重要。
- **学校**は、日常的に端末を使用している際に、「ネットワーク・端末に不具合がないか」「活用を支障をきたしていないか」等の観点で確認するとともに、**不具合等がある場合は教育委員会に情報を伝えることが重要**。



日常的に端末を不具合なく活用できていることが、CBTの実施においても、大きなトラブルが無く実施できることに繋がると考えられる。

確認すべき事項

1 ネットワーク



- **各学校のネットワークの不具合の有無**

同時に全ての授業において、多数の児童生徒が高頻度で端末を活用しても、「ネットワークが遅い」「繋がりにくい」といった不具合が起きていないかどうか

- **各学校のネットワークの実効帯域**

各学校のネットワークが、全国学力・学習状況調査「中学校理科」をCBT方式で実施するために必要な帯域を満たしているか。
不明な点は、各自治体のICT担当に相談してください。

詳細はP6へ ▶

2 端末



- **端末の不具合の有無**

端末を日常的に活用する中で、「端末の動作が遅い」「故障していて使えない」といった不具合が起きていないかどうか。

詳細はP7へ ▶

サンプル問題を活用した**事前検証においてネットワークや端末を不具合なく実施できているか**確認してください。

学校の設置者（教育委員会等）のICT担当者にも相談の上、確認してください。

各学校のネットワークの実効帯域が、全国学力・学習状況調査「中学校理科」をCBT方式で実施するために必要な帯域を満たしているか、確認してください。



【最低動作環境の目安】

学校の実効帯域 $\geq$ 調査に参加する生徒数 $\times$ 0.5Mbps*

*0.5Mbpsは、令和7年度CBT中学校理科(サンプル問題、本番の調査問題) で使用する動画帯域。

※上記式では、最低動作環境という趣旨で、“調査に参加する生徒数”として計算している。当然ながら、同一時間帯に他の学級が端末を使用する場合は、その学級が使用する帯域を考慮する必要がある。

※実効帯域の確認方法について不明な点がある場合は、各自治体のICT担当に相談してください。

- 最低動作環境の目安を下回る場合であっても、直ちに「中学校理科」をCBT方式で実施することができないものではありません。重要なのは、調査に参加する生徒全員が、ネットワーク環境に不具合がない状態で本番の調査問題に取り組めるかどうかです。このことを1月からのサンプル問題(中学校理科)を活用した事前検証の中で確認していただくようお願いします。
- 逆に、最低動作環境を満たしていても、校内ネットワークの不具合により正常に接続できない事象が有り得ます。調査に参加する生徒が同時にサンプル問題（中学校理科）にアクセスしても支障が無いことを確認してください。
- 普段から複数クラスで同時に端末を活用する際に不具合が発生していないかを確認することも重要です。



使用する端末に不具合や故障がないか

CBTで使用する端末に「端末の動作が遅い」「故障していて使えない」等といった不具合が起きていないかの確認を行う必要があります。端末交換等には時間がかかるため、早めの対応が必要です。4月の調査本番までに確認の上対応すべき事項をまとめましたので、対応していただくようお願いします。なお、1月からの事前検証の実施にあたっては、本事項を参考に準備を進めてください。

1月以降速やかに確認して対応すべき事項

確認事項	対応例	確認を怠ると生じうる不具合の例
端末に不具合が 無いかの確認	- 端末（バッテリー、画面、キーボード、カメラ等）の故障がないかを確認する。 - 端末の動作が重い場合は、不要なソフトウェアを削除する。 - アップデートや設定変更を反映するために端末を再起動する。	- 端末の故障により、調査を正常に実施できない。 - 端末の動作が重く、調査を正常に実施できない。 - アップデートや設定変更が反映されない。
Webブラウザ・OSの アップデート	- 各端末でWebブラウザ・OSが最新であることを確認し、最新でない場合はアップデートを実施する。 - 調査中にアップデートが実施されないよう、アップデートの時間帯の調整や使用帯域の制限を行う。	- MEXCBTがWebブラウザ上で動作しない。 - 端末の動作やネットワークが重くなる。

4月調査本番の前日までに確認して対応すべき事項

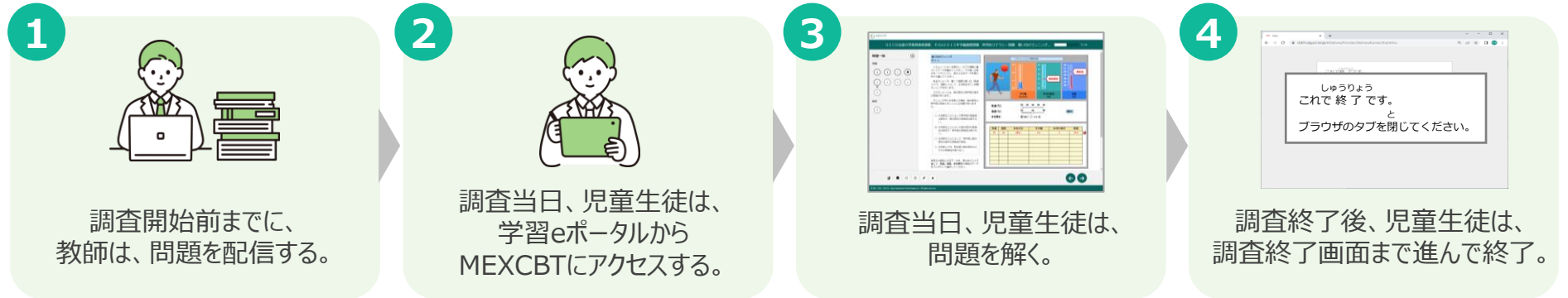
確認事項	対応例	確認を怠ると生じうる不具合の例
予備端末の準備	調査当日のトラブルに備えて、予備の端末を用意しておく。	- 端末にトラブルが生じた生徒が調査を実施できない。 - 端末を自宅等に忘れた生徒が調査を実施できない。
カメラの動作確認	カメラのアプリを立ち上げて、QRコードを読み取れるか確認する。	生徒が自分の答案番号を読み込めなくなる。
ブラウザの拡大率・ 文字サイズ	ブラウザの拡大率が「100%」（元のサイズ）、文字サイズが「規定のサイズ」になるよう設定する。	問題文や図表等が適切な大きさで表示されない。
スリープ機能等の設定	自動画面オフ、スクリーンセーバー、スリープ機能の時間設定等を解除する。	操作しない間にログアウトしてしまう場合がある。
充電	端末を充電する。	調査中にバッテリー切れとなり端末が使えなくなる。

4月調査本番当日に確認して対応すべき事項

確認事項	対応例	確認を怠ると生じうる不具合の例
使用しないWebページ やアプリを閉じる	端末のメモリ負荷や通信負荷を軽減するため、使用しないWebページやアプリを閉じる。	端末の動作やネットワークが重くなる。

① 全国学力・学習状況調査をMEXCBT上で実施する際の一連の流れ

MEXCBTは、活用する基本的な流れは以下のとおり。



② 全国学力・学習状況調査をMEXCBT上で実施する際の注意事項

MEXCBTでの調査を実施するに当たっては、以下の事項にご注意ください。結果を正しく返却できなくなります。

注意事項 1 学習eポータルアカウントについて



● 学習eポータルのアカウントは必ず一人一人に割り当てられたものを使用してください。

- 学習eポータルのアカウントは共用せず、**必ず1人につき1アカウント**を割り当てます。(学習eポータルのアカウント毎に、MEXCBTに答案用紙(答案データ)が作成されます。)
- 同じ学習eポータルアカウントを使用して複数回解答する場合は、解答が上書きされてしまうため、複数人で同じアカウントを使い回さず、自分のアカウントを利用してください。
- 教員は、生徒が調査で利用するアカウントで問題の確認等を絶対にしないでください。
- アカウントの追加発行には時間がかかる場合があるので、極力早期に実施をしてください。

注意事項 2 答案番号



● 答案番号を誤ると調査実施や結果返却を行えなくなるため、誤った答案番号を入力しないでください。誤りを防ぐため、答案番号は二次元コードの読み取りにより入力してください。

- 調査問題へ解答する際には、最初に答案番号の入力画面が表示されます。
- 答案番号は本調査固有の番号となり、事前に調査問題に設定されている番号でのみ、解答を開始することができます。誤った番号を入力した場合は、エラーとなり解答に進むことができません。また、他の生徒の答案番号を入力すると、結果返却を正しく行えなくなります。
- 本調査においては生徒ごとに配付する答案番号票に記載されている二次元コードを読み取ることで、正しい答案番号を入力することができます。

注意事項 3 調査終了時



● 調査終了時には必ず左記のページが表示され、提出がされたことを確認してください。

- 最後に「これで終了です。ブラウザのタブを閉じてください」という画面まで進まないと、解答データが提出されません。

③ アクセス方法の工夫

多くの生徒が一齐に学習eポータルやMEXCBTにログインしようとすると、アクセスが集中して円滑にログインできない場合があります。

各生徒が円滑にMEXCBTの調査画面に進めるよう、各学校において以下のような工夫をお願いします。



先にログイン

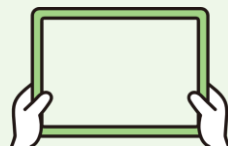


次にログイン

クラス全員が一齐にログインせず、
ログインのタイミングをずらす。



アクセスできない



予備端末

他の生徒はアクセスできるが、特定の端末のみ
アクセスできない場合は、**予備の端末に切り替える。**



左記のような対応を行えるよう、
ログインのための時間を十分に確保する。

※令和7年度の中学校調査では、

- 最初の時限 : ログイン等の準備
生徒質問調査
操作練習
- 次の時限 : 中学校理科

という時間割にすることで、ログイン等の準備を余裕をもって行えるようにする予定です。

※ ネットワーク・システムの混雑を避けるため、学習 e ポータルや MEXCBT にログインするのは調査を開始する直前としていただくようお願いします（例えば、3 時間目から調査を行うにも関わらず、朝の会のうちからログインしておくことはお控えください。）。特に、午前 8 時半～9 時の時間帯は、全国学調以外の目的で学習 e ポータルや MEXCBT を利用する学校も多いため、御理解と御協力をお願いします。

① サンプル問題（中学校理科）について

「令和7年度以降の全国学力・学習状況調査(悉皆調査)CBTでの実施について(令和6年9月改定)」(令和6年9月文部科学省総合教育政策局参事官(調査企画担当)付学力調査室)において、「生徒や教師が端末を用いた調査に円滑に移行できるよう、令和6年秋頃を目途に、各学校においてサンプル問題(中学校理科)にMEXCBT上で取り組めるような環境を整備する。」としています。

これを踏まえ、文部科学省・国立教育政策研究所において
サンプル問題（中学校理科）を作成し、MEXCBT上に公開します。

	公開日	公開内容
第1弾	令和6年10月29日	通常問題【9問】 ※ 4月の本番の調査問題で使用される可能性のある解答方式を含む様々な問題を準備しています。
第2弾	令和7年1月15日予定	配慮を必要とする生徒のための問題（拡大文字問題・ルビ振り問題） ※ 内容は基本的に通常問題と同じとなる見通しです。

② 事前検証について



目的	MEXCBT上での理科の問題の閲覧、解答等を正常に行えるか等、ICT環境・端末操作の確認を行う。
実施日	令和7年1月から3月のうち、令和6年10月29日付事務連絡「令和7年度全国学力・学習状況調査CBTサンプル問題(中学校理科)のMEXCBTへの搭載について」の「6.（2）事前検証の実施予定日等の登録について」にて登録した実施予定日
所要時間	30分程度
対象者	令和7年度全国学力・学習状況調査に参加予定の全ての中学校等において、本調査で中学校理科を実施する全生徒（令和6年度において中学第2学年の生徒）
実施内容	対象者全員が、4月の調査当日に近い環境で、サンプル問題(中学校理科)に取り組む。

③ 事前検証の準備

1

本操作練習の実施日時・場所等を各学校で決めてください。

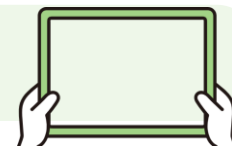


※ 本操作練習は、4月の調査本番に向けた「接続環境確認」を兼ねているため、極力本番に近い環境で実施することを検討いただくようお願いします。

- ・ 4月の調査本番を学年全体で一斉に実施する予定であれば、本操作練習も学年全体で実施することが望ましいです。
- ・ 状況が許せば、4月に中学校理科の調査を実施する予定の教室で実施いただくことも考えられます。
- ・ 各学校内での状況に応じて、学級ごとでネットワーク環境が安定している教室を選んで実施することや、学級内で複数に分散して実施すること等をご検討ください。

2

令和7年度調査で中学校理科を実施する全生徒(令和6年度の中学校2年生)に、学習eポータルアカウントを割り当て、MEXCBTを利用できるようにする。



3

事前検証を実施する前日までに、教師用のアカウントを使用して、サンプル問題を生徒に配信する。



4

生徒の端末について、十分に充電されているか等、使用可能な状態であるか確認する



5

事前検証当日、生徒全員が端末を学校で使えるよう、生徒に適切に連絡する。

④ 事前検証の当日

1

実施場所で、各生徒に1人1台端末で学習eポータルからMEXCBTにアクセスさせる。

※ 多くの生徒が一斉にMEXCBTにログインすると、ネットワークやサーバに負荷がかかります。MEXCBTログインのタイミングをグループごと
にずらすなど、ログイン時の負荷を分散する工夫をお願いします。

2

各生徒にサンプル問題にアクセスさせ、取り組ませます。

※ サンプル問題については4月の本番の調査問題で使用する可能性のある解答方式を含む様々な問題を準備していますので、全ての
問題に取り組むようお願いします。

3

**終了画面が表示されたことを確認してください。
本事前検証で、調査本番のネットワーク環境・実施体制に問題ないことを確認してください。**

※一連の過程で実施に関するトラブル（ネットワークや端末の不具合など）が生じた場合、4月までに、各自治体にお
いて契約している運用保守事業者等がいる場合には、当該事業者等に対し相談を行うなど、トラブルの解消に努めて
ください。

※事前検証以外の機会でも、必要に応じて、サンプル問題を活用して本番の調査に向けた準備を行ってください。



**中学校理科サンプル問題は、調査本番と同等のネットワーク負荷となるよう作成しております。そのため、調査本番と
同じ実施・分割体制で、ネットワークや端末に不具合がなく、中学校理科サンプル問題を解答することが必要です。**

3

参考資料

【参考資料 1】学校ネットワークの確認 … 15

- (1) 不具合箇所とその原因のイメージについて … 16
- (2) 学校のネットワーク課題把握のためのアプローチ … 17
- (3) 学校の回線契約について … 18
- (4) ネットワークアセスメント実施済の自治体で判明した課題 … 19
- (5) (参考) 一般的なトラブルの例 … 20

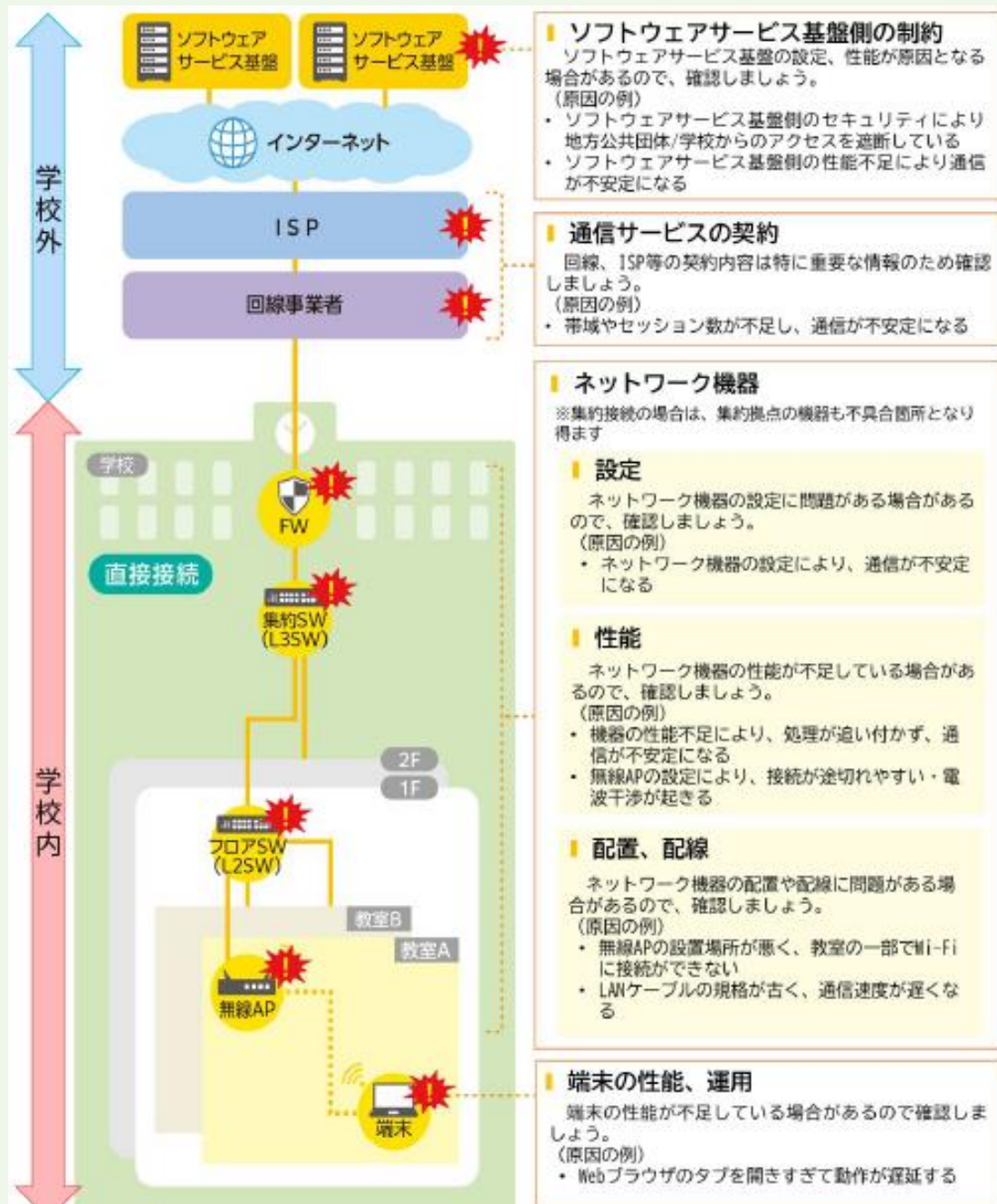
【参考資料 2】端末のトラブル例（令和 6 年度 CBT 試行・検証事業より） … 23

【参考資料 3】MEXCBT 関係手続の流れ … 25

学校ネットワークの確認

(1) 不具合箇所とその原因のイメージについて	...	16
(2) 学校のネットワーク課題把握のためのアプローチ	...	17
(3) 学校の回線契約について	...	18
(4) ネットワークアセスメント実施済の自治体で判明した課題	...	19
(5) (参考) 一般的なトラブルの例	...	20

(1) 不具合箇所とその原因のイメージについて



学校の回線契約の確認

学校内の配線やネットワーク機器のスペック・設定の確認

端末のスペックや設定の確認



(2) 学校のネットワーク課題把握のためのアプローチ

- **当面の推奨帯域を満たすことは、学校のネットワークの改善の必要条件の一つ。**
- ネットワークの改善は、児童生徒や教職員の体感改善のために行われるべきであることから、帯域測定とあわせて**ユーザ体感調査を実施することが必要**。※ユーザ体感調査により、帯域測定だけでは判明しない校内NWの不具合の把握が可能となる。

簡易帯域測定とユーザ体感調査の進め方

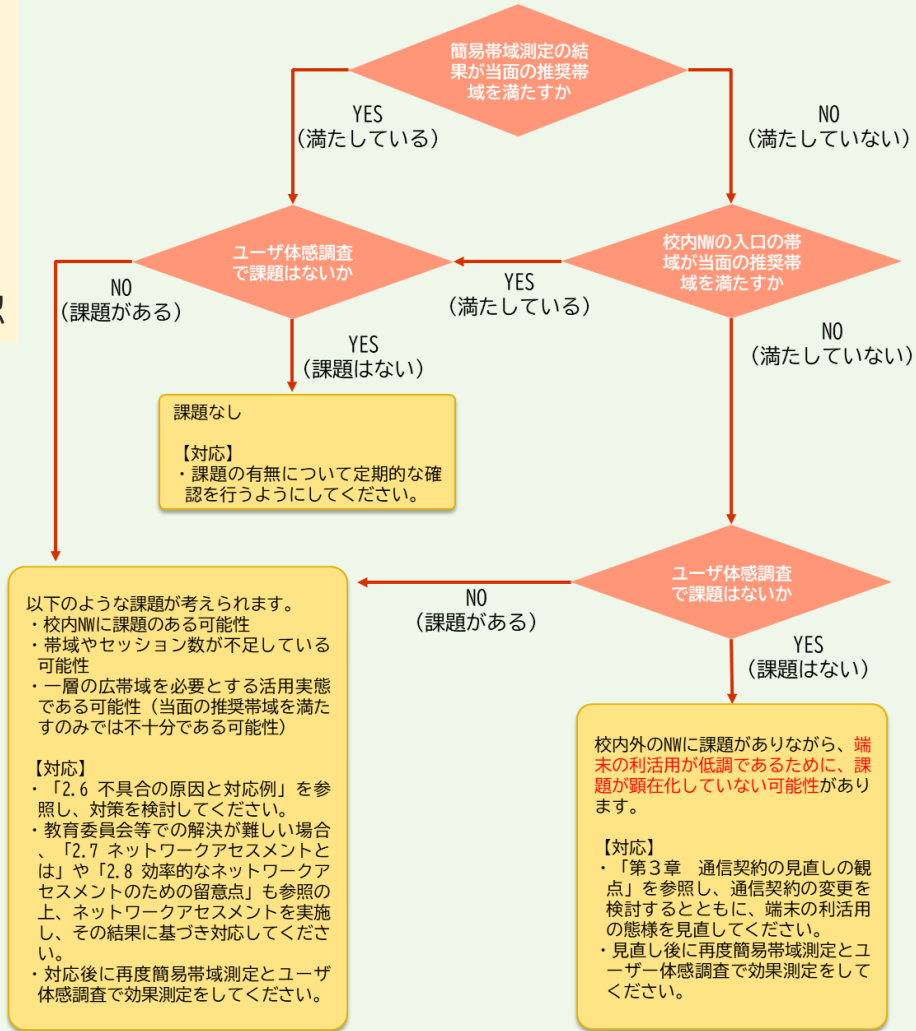
- ◆ 教育委員会等から、簡易帯域測定とユーザ体感調査を学校に依頼
- ◆ 教育委員会等において、簡易帯域測定とユーザ体感調査の結果から「ネットワーク課題把握のフローチャート」に沿って課題の有無を判定
- ◆ 簡易帯域測定の結果が当面の推奨帯域を満たしていない場合は、追加で校内ネットワークの入口の帯域が当面の推奨帯域を満たしているか確認

※詳細は、学校のネットワーク改善ガイドブックを参照すること。

(参考)校内ネットワークの入口の帯域を確認する方法の例

- ①簡易測定結果に1.4を乗じた数値を校内ネットワークの入口の帯域と仮定し、これが当面の推奨帯域を満たすかを確認
- ②集約SW（L3SW）直下での有線での帯域測定
- ③校内ネットワークの入口にあるルータにトラフィック流量のモニタリング機能が備わっている場合は、当該機能を用いてトラフィックのピーク値が当面の推奨帯域より大きいものであるかを確認

※①の方法は、通信が校内ネットワークを巡る過程での帯域の減衰について一定の仮定を置いて計算するものであり、学校のネットワークの実態を正確に把握するものではない点（無線の距離による減衰の他、使用する規格や機器のアンテナ数によっても値が低くなる等）に留意してください。



(3) 学校の回線契約について

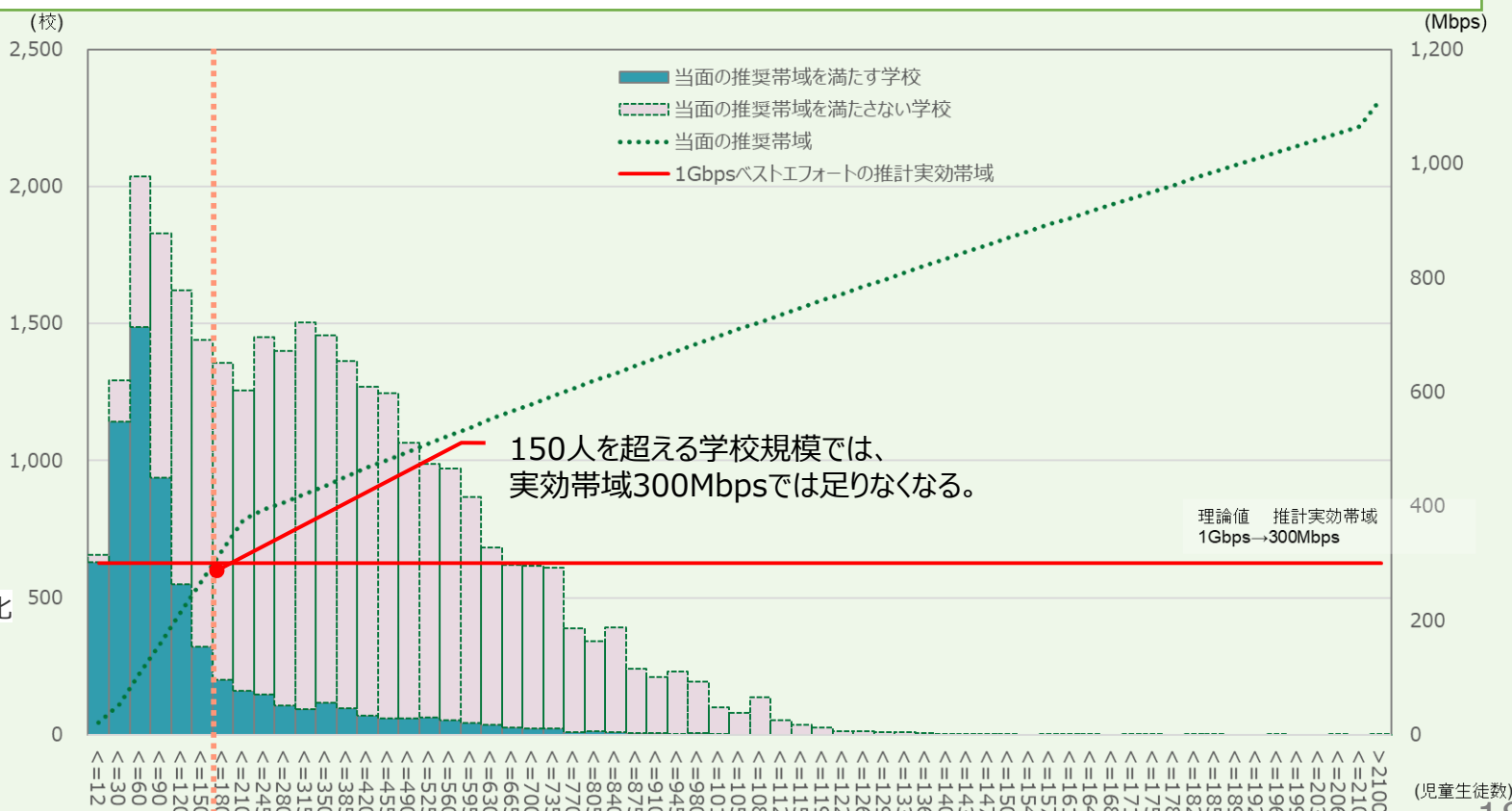
- 2 Gbps未満の契約をしている学校は約95%。
- また、ベストエフォート回線は、他のユーザと回線を共有するため、実際の回線帯域は込み具合によって変化することから、理論値の3割が実効速度と仮定すると、1 Gbpsのベストエフォート回線の**実効帯域は約300Mbps**となる。
- これらの状況を踏まえると、1 Gbpsベストエフォート回線の契約では、**151人以上の規模の学校においては、「当面の推奨帯域」を満たせる可能性は低くなると考えられる。**

※ 1 Gbpsのベストエフォート型サービスであっても、共有数が少なく、これ以上の実効帯域を期待できるものもある。

来年度の教科調査「理科」のCBT実施において、この帯域が必ずしも必要というものではないが、学校における利用において、ネットワーク帯域に起因するトラブルが起きていないためには必要な水準であり、**学校規模に見合った回線契約は必要**。また、帯域の他、**契約しているセッション数（ポート数）も重要である**。

固定回線における学校の接続 回線速度※	
接続回線速度	学校数
1 Gbps未満	10,546校 (33.7%)
1 Gbps以上 2 Gbps未満	19,310校 (61.6%)
2 Gbps以上	1,477校 (4.7%)
合計	31,333校 (100%)

(※)令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査



(4) ネットワークアセスメント実施済の自治体で判明した課題

ネットワークアセスメントを実施した自治体では、以下のような課題が判明しました。
学校のネットワーク環境の不具合確認や改善策検討を行う際の参考にしてください。
各自治体において契約している運用保守事業者等がいる場合には、当該事業者等に対し相談を行うことも考えられます。



課題	課題が発見された割合 (R6.10時点)	原因	対応例
1 機器の設置位置 や配線等	19.5%	・配線の不備 ・配線・機器の老朽化 ・機器設置位置の不備	● LANケーブルの長さを100メートル以下とすることや機器への接続数の見直しなどにより改善。 ● 無線APの設置場所を見直すことにより改善。
2 無線アクセスポイント (AP)	21.4%	・無線APの電波干渉 ・無線APの設定不良 ・無線APの性能不良	● 無線APの設定を適切な電波強度かつ電波干渉がしにくくなるような設定に変更することで改善。 ● 無線APを2教室で1台使用する設計となっていたものを、各教室に1台ずつ設置することで改善。
3 無線アクセスポイント (AP)以外の機器	10.5%	・無線AP以外の機器の設定不良 ・無線AP以外の機器の性能不良	● 校内のファイアウォールの設定変更により改善。 ● 大規模校のルーターをより上位機種に交換することにより改善。
4 回線 (通信回線やISP等)	26.2%	・帯域の不足 ・セッション数の不足	● 通信回線を1Gbpsから10Gbpsに変更するとともに、周辺機器も10Gbpsに対応する機器に変更することにより改善。 ● 校内ではなくプロバイダ側に回線の輻輳が見られたため、プロバイダの接続方法を変更することにより改善。

(5) (参考) 一般的なトラブルの例

通信サービスの契約

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアセスメント項目
1	・インターネット通信が遅い	使用しているセッション数が、契約しているセッション数の上限を超えてしまい、セッション数が不足する	・通信契約の見直し (動的グローバルIPアドレスから固定グローバルIPアドレスへ変更)	・机上調査 ・レイテンシ調査 ・スループット調査 ・セッション調査
2		ベストエフォート型回線において、回線が混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し (回線種別の変更)	
3		ISPが混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し (ISPの変更)	
4		PPPoE方式の設備が混雑し、回線の帯域が不足する	・通信契約の見直し (IPv6接続に変更)	

ネットワーク機器の設定

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアセスメント項目
5	・インターネット通信が遅い	ネットワーク機器が、本来の性能を発揮できず、校内LANで帯域が不足する	・適切な設定がされているか確認	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
6		校内LANのネットワーク機器で通信帯域制限を設定し、校内LANで帯域が不足する (例：無線APで10Mbpsに制限され、大容量の通信の際には遅延が発生する)	・通信帯域制限の見直し	・机上調査 ・トラフィック調査
7	・インターネット通信が遅い ・無線LANが切れてしまう	無線AP同士が電波干渉し、無線LANの接続が不安定になる (例：2.4GHz帯の無線LANしか使用しておらず、電波干渉を起こしている)	・無線APのチャンネル変更 ・チャンネル干渉の自動回避設定	・机上調査 ・電波干渉調査
8		無線APの電波強度が不足し、無線APから距離が離れると通信が不安定になる	・無線APの増設 ・無線APの電波強度の変更	・机上調査 ・電波干渉調査 ・ヒートマップ調査
9		2.4GHz帯の電波を使用する無線APに接続していたことで、複数台端末を無線APに接続すると通信が不安定になる	・5GHz帯の電波を新規設定	・机上調査 ・スループット調査 ・レイテンシ調査 ・トラフィック調査
10		無線APの帯域不足 (例：Wi-Fi 4等の古い無線規格を用いて通信していたことで、帯域が不足する)	・Wi-Fi 6等の無線規格へ変更 ・チャンネルボンディング設定 ・ストリームの多い無線APへの更改	
11	・教室間の移動などで無線LANが切れてしまう	無線APの接続切り替わり不良により、教室間の移動などで無線LANの接続が不安定になる	・無線APのローミング設定の見直し	・机上調査 ・ローミング調査

※詳細は、学校のネットワーク改善ガイドブックを参照すること。

ネットワーク機器の性能

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
12	・インターネット通信が遅い	老朽化で機器の動作が不安定になることで、通信が正常に処理できない	・新しいネットワーク機器への更改	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
13		ネットワーク機器の処理性能が低いため、通信が正常に処理できない	・新しいネットワーク機器への更改	
14		FWでのセキュリティ機能の処理の負荷が高く、インターネット通信が遅くなる	・新しいネットワーク機器への更改 ・設定の見直し	
15		アプリケーションフィルタリングやコンテンツフィルタリング機能によりインターネット通信が遅くなる	・コンテンツフィルタリングの機器（プロキシサーバ、FW）の更改 ・クラウドサービスの場合、コンテンツフィルタリングサービスの見直し ・アプリ、コンテンツフィルタリングの見直し	
16	・インターネット通信が遅い ・無線LANが切れてしまう	無線APの接続台数が過剰となり、通信が不安定となる（例：2教室で1台の無線APを共用することにより、接続台数が増加し、通信帯域が低下する）	・無線APの増設 ・新しい無線APへの更改	

ネットワーク機器の配置、配線

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
17	・インターネット通信が遅い	ネットワーク機器の構成の不備 （例：ネットワーク機器が数珠つなぎになっており、特定機器に通信が集中し、通信が処理できなくなる）	・ネットワーク構成の見直し	・机上調査 ・トラフィック調査 ・CPU・メモリ調査
18		配線の老朽化 （例：LANケーブルが老朽化で一部断線して、通信が不安定になる）	・新しいLANケーブルの配線	—
19		古い規格のケーブル （例：LANケーブルのカテゴリが4で1Gbpsの通信に対応しておらず通信が低下する）	・新しい規格のLANケーブルの配線	・机上調査
20	・インターネット通信が遅い	機器設置位置の不備 （例：無線APの設置場所が不適切で、建物の構造等による影響を受けていた）	・無線APの設置場所の変更	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査
21	・無線LANが切れてしまう	適切な距離に無線APが設置されておらず、教室間の移動をすると無線LANが切れてしまう	・無線APの増設 ・無線APの設置場所の再検討	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査 ・ローミング調査
22		適切な距離に無線APが設置されておらず、無線AP間で電波が干渉し、無線LANの接続が不安定になる	・無線APの設置場所の変更 ・無線APの電波強度設定の変更	・机上調査 ・電波強度調査 ・ヒートマップ調査 ・電波干渉調査
23		古い無線APと新しく整備した無線APの電波が干渉し、無線LANの接続が不安定になる	・古い無線APの停止、撤去	・机上調査 ・電波干渉調査

ソフトウェアサービス基盤側の制約

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
24	・特定のソフトウェア（クラウドサービス）を使った時に遅くなる	ソフトウェアサービスが正常に提供されていない	・事業者のホームページ等で提供状況を確認	—
25		ソフトウェアサービス側で学校からのアクセスを攻撃と誤検知して遮断している	・事業者を確認し、遮断されている場合は解除を依頼	—
26		ソフトウェアサービス側のサービス提供基盤の処理速度が遅い	・事業者においてサービス提供基盤の増強が計画されているか確認	—

端末の性能、運用方法

NO	不具合の内容	不具合の原因と考えられるもの	考えられる対応例	ネットワークアクセスメント項目
27	・インターネット通信が遅い	OSのアップデートが帯域を占有	・OSアップデートの分散化	—
28	・無線LANが切れてしまう	Webブラウザのタブの開きすぎによるメモリの過剰な消費	・多数のタブを同時に開かないようにする	—
29	・ソフトウェアを使った時に遅くなる	OSが最新のバージョンにアップデートされていない	・OSアップデートを定期的実施	—
30		ウイルス感染による端末性能低下や不要な通信の増加	・ウイルス駆除	—
31		ソフトウェアによる端末リソース（CPU・メモリ等）の消費	・不要な常駐ソフトの削除	—

端末のトラブル例

(令和 6 年度 CBT 試行・検証事業より)

令和 6 年度 CBT 試行・検証事業

全国の小・中学生約10,000人を対象として、オンライン方式での調査に向けた学校のICT環境、実施方法や学校支援方策、問題等について試行・検証を実施。

令和 6 年度は、試行・検証の最終段階として、ネットワーク等のICT環境に不安のある自治体を対象とし、ネットワーク等のICT環境に関するトラブルについて事例を収集。

試行・検証で見られた端末のトラブル例

- 端末を忘れた生徒は受検できなかった。
- キーボードが故障しており、入力できない文字がある生徒がいた。
- 故障した端末の修理に時間がかかっており、校内で端末が不足していた。
- カメラが起動せず、調査に必要なQRコードの読み込みができなかった。
- 問題を解いている最中に、ソフトウェアのアップロードが始まってしまった。
- OSのアップデートがされておらず、2世代前のOSを使用していたため、途中で複数回端末の動作が止まった。



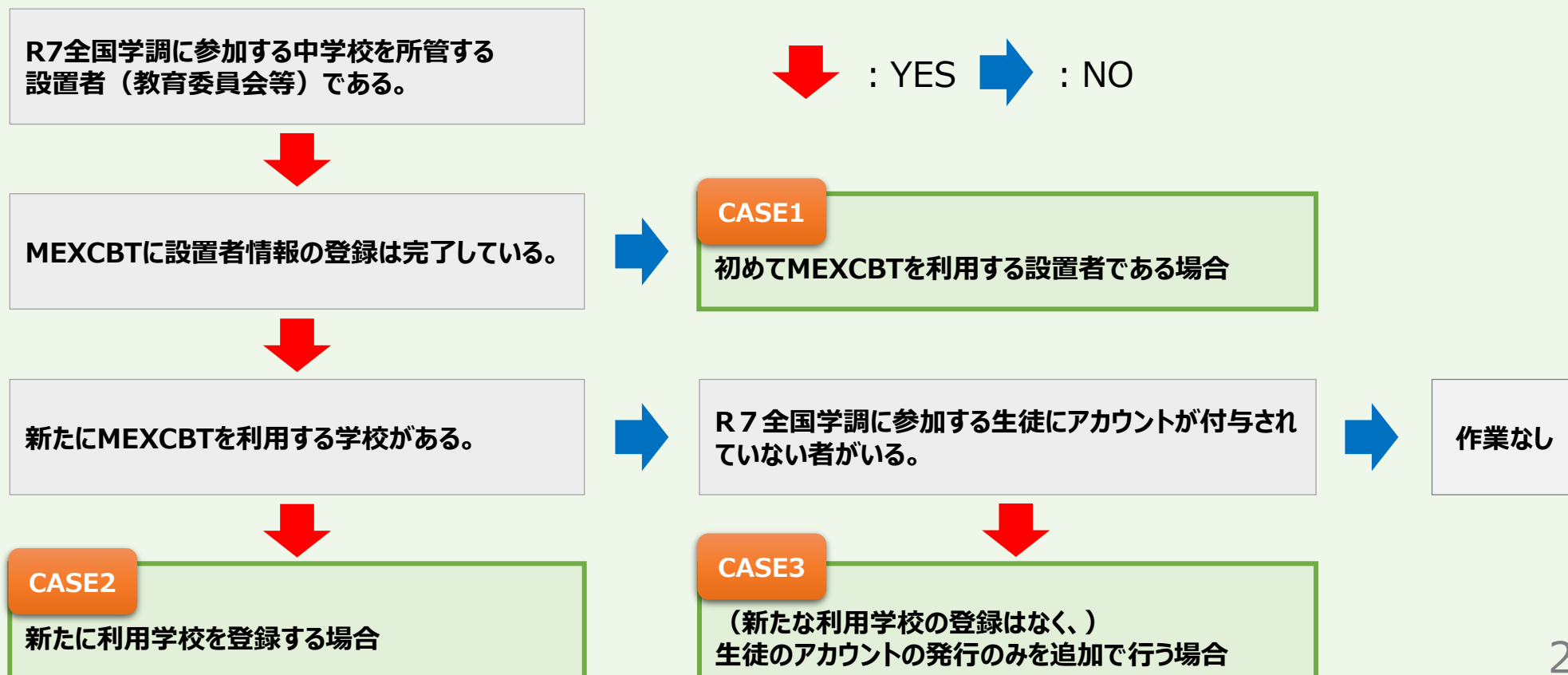
P7を参考に、使用する端末に不具合や故障がないか、事前に確認してください。

MEXCBT関係手続の流れ

(1) MEXCBT関係手続の流れ

- 令和7年1月～3月に全国学調の事前検証があるため、アカウントの発行が完了していない場合は、以下の手続に従って申込を行ってください。
- 申込の状況によっては遅れる可能性もあるため、速やかに手続をスタートするようにしてください。

(参考) 必要な手続を確認するフローチャート



「運用支援サイト」での利用に関する手順のイメージ

MEXCBTに関する設置者や利用学校の登録は、運用支援サイトで行います。
(運用支援サイトURL : <https://support2.mexcbt.mext.go.jp>)



利用申込サイトイメージ



【新規申込】

- ✓ 新規申込時のユーザー名とパスワード（右の画面）は【令和6年3月27日付事務連絡「文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）」の活用募集について（依頼）】を参照してください（右上画面の「新規申込」をクリックした際に要入力）。
※上記事務連絡は、GIGAスクール構想担当課、全国学力・学習状況調査担当課宛てにお送りしておりました。
- ✓ 必ず利用申込ページに掲載の＜留意事項および申込の流れ＞をよくお読みいただいたうえでお申し込みください。

【登録情報の追加・修正】

- ✓ 右上画面の「登録情報の追加・修正」をクリックして移動した次のページから各種登録・修正を行おうとすると右のログインが表示されるので、「メールアドレスでログイン」をクリックしてください。ここで入力するメールアドレスは、当該設置者内で、**MEXCBT利用申込の設置者として登録されているメールアドレスです。**（例えば他の課の担当者が最初に利用申込を行った場合、その課のメールアドレスが設定されていることがあります。設置者内を尋ねても不明な場合はMEXCBTコールセンターにお尋ねください。）
- ✓ 当該メールアドレスにログイン用のURLが記載されたメールが送信されますので、そのURLからログインできます。



CASE 1 : 初めてMEXCBTを利用する設置者である場合

設置者の担当者が実施する内容

学校の担当者が実施する内容

設置者情報の
新規申込

「[運用支援サイト](#)」MEXCBT利用申込の「新規申込」をクリックし、「1. 設置者情報新規登録」から、設置者情報、設置者連絡先等を登録してください。

利用学校の
登録

「2. 利用学校登録」からMEXCBTを活用する学校名、学校担当者連絡先、**活用する学習eポータル**の選択等を行ってください。
※設置者にて利用を希望する学校を取りまとめて申込みいただきます。

学校情報の
登録

登録された学校担当者メールアドレス宛てに「学校情報登録依頼」が送信されます。学校担当者は、「1. 学校情報修正」より、利用学年やアカウント概数等を登録します。
※アカウント概数等の登録が必須となります。

利用準備・
通知

MEXCBT、学習eポータル事業者等による利用開始準備や通知を行います
※**活用する学習eポータルにより手順が異なりますので、当該事業者の指示する方法によりアカウントの発行手続きを行ってください。**
※運用支援サイトに入力された情報をもとに、設置者、学校担当者に別途事業者等から連絡されることがありますのでご承知おきください。

MEXCBT
活用開始

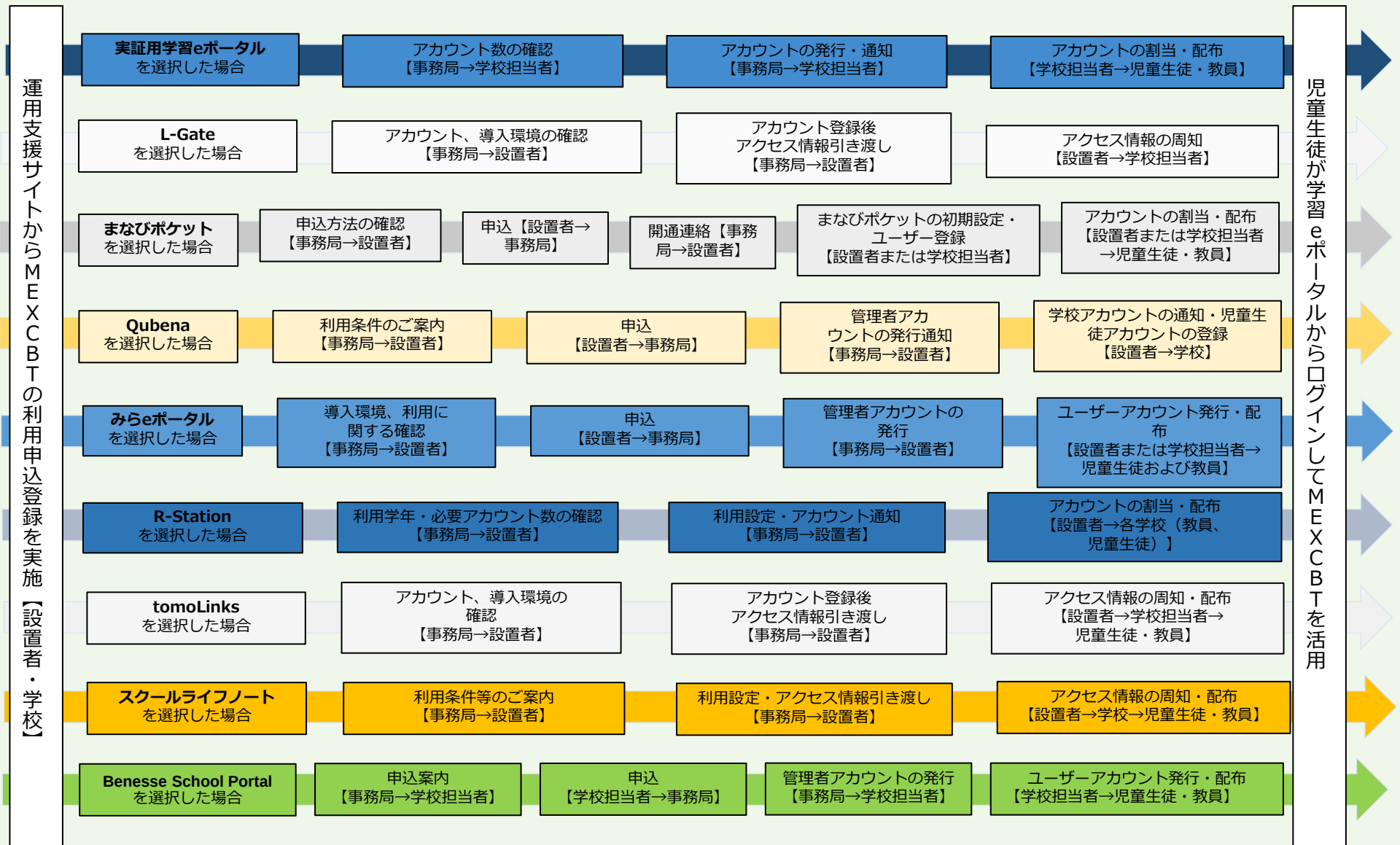
教員及び児童生徒は、学習eポータルを窓口として、MEXCBTの利用を開始します。
※運用の手順等は「[MEXCBT運用マニュアル](#)」参照

The screenshot shows the MEXCBT web application interface. At the top, there's a header with the MEXCBT logo and a note about browser compatibility. Below this, there are three main sections: '設置者 (公立)' (Public Institution), '設置者 (国立・私立)' (National/Private Institution), and '学校担当者' (School Staff). Each section contains a grid of buttons for different actions. In the '設置者 (公立)' section, buttons 1 (設置者情報 新規登録) and 2 (利用学校 登録) are highlighted with a red box. In the '設置者 (国立・私立)' section, button 1 (設置者情報 新規登録) is highlighted. In the '学校担当者' section, button 1 (学校情報 修正) is highlighted. A note at the bottom left states: '※テスト作成サイトの利用申込を行うには、「1 設置者情報新規登録」が必要となります。'

※公立、国立・私立の設置者と学校担当者でメニューが分かれています。
上は公立学校の登録情報の追加を行う例です。

令和7年度新設校については、令和7年1月初めを目途に作業開始可能時期を別途連絡します。

【補足】CASE 1：学習eポータルアカウント発行手続イメージ



※事務局は次の通りです。実証用学習eポータル：文部科学省委託事業者（オンライン学習システム推進コンソーシアム） L-Gate：株式会社内田洋行 まなびポケット：NTTコミュニケーションズ株式会社 Qubena：株式会社COMPASS
みらeポータル：株式会社ネットラーニング R-Station：株式会社両備システムズ tomoLinks：コニカミノルタ株式会社 スクールライフノート：株式会社EDUCOM Benesse School Portal：株式会社ベネッセコーポレーション
※現在、Open Platform for Education（日本電気株式会社）、Studyplus for School（スタディプラス株式会社）は、新規申込を受け付けていません。

CASE 2：新たに学校を登録する場合

設置者の担当者が実施する内容

学校の担当者が実施する内容

登録情報の
追加・修正

「[運用支援サイト](#)」MEXCBT利用申込の「登録情報の確認・修正」をクリック。

利用学校の
登録

公立学校の設置者は「2. 利用学校登録」から利用申込を行いたい学校の情報を登録してください。
※設置者にて利用を希望する学校を取りまとめて申込みいただきます。

学校情報の
登録

登録された学校担当者メールアドレス宛てに「学校情報登録依頼」が送信されます。学校担当者は、「1. 学校情報修正」より、利用学年やアカウント概数等を登録します。
※アカウント概数等の登録が必須となります。

利用準備・
通知

MEXCBT、学習eポータル事業者等による利用開始準備や通知を行います。

※活用する学習eポータルにより手順が異なりますので、当該事業者の指示する方法によりアカウントの発行手続きを行ってください。

※運用支援サイトに入力された情報をもとに、設置者、学校担当者に別途事業者等から連絡されることがありますのでご承知おきください。

MEXCBT
活用開始

教員及び児童生徒は、学習eポータルを窓口として、MEXCBTの利用を開始します。

※運用の手順等は「[MEXCBT運用マニュアル](#)」参照



※Internet Explorerには対応しておりません。Microsoft Edge、Google Chrome、Safari

設置者（公立）

1

設置者情報
新規登録

2

利用学校
登録

4

登録情報
確認修正

5

ファイル
管理

6

テスト作成
サイト
利用申込

※テスト作成サイトの利用申込を行うには、「1 設置者情報新規登録」が必要となります。

設置者（国立・私立）

1

設置者情報
新規登録

3

管理学校
追加

4

登録情報
確認修正

5

ファイル
管理

6

テスト作成
サイト
利用申込

学校担当者

1

学校情報
修正

2

ファイル
管理

※公立、国立・私立の設置者と学校担当者でメニューが分かれています。
上は公立学校の登録情報の追加を行う例です。

令和7年度新設校については、令和7年1月初めを目途に作業開始可能時期を別途連絡します。

CASE 3 : (新たな利用学校の登録はなく、) 児童生徒のアカウントの発行のみを追加で行う場合

- **児童生徒のアカウント発行の手続**は、各設置者が契約している学習eポータルによって異なります。学習eポータル導入時等に提供されたマニュアル等により手続を行ってください。
- また、**児童生徒のアカウントの割当** (どの児童生徒にどのアカウントを使用させることにするかを学校で決めること) についても、学習eポータル導入時等に提供されたマニュアル等により手続を行ってください。

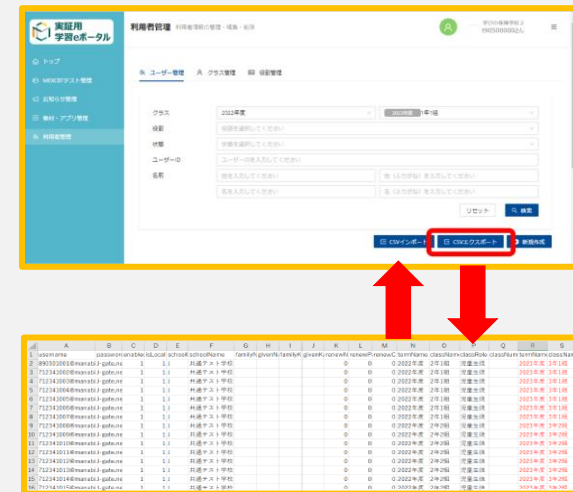
(例) STEP 1 : 学校で、対象児童生徒のアカウント発行状況を確認。

STEP 2 : 学校で、マニュアル等を参考に、アカウントを割り当てる。

以下、参考例 (実証用学習eポータルの作業手順)

- ① 「利用者管理」を選択し、「ユーザー管理」を開きます。
「CSVエクスポート」をクリックして、任意のCSVファイルをダウンロードします。
- ② エクスポートしたユーザー情報CSVファイルをExcelで開き、マニュアルに従って各項目を入力し、追加するアカウント情報が記載されたCSVを完成させます。
- ③ 完成させたCSVファイルをインポートします。
- ④ インポート完了後、「ユーザー管理」タブで、アカウントが追加されていることを確認してください。

※最新の運用マニュアル第8章「年次更新(アカウント情報の変更・追加)をする」を必ず参照してください。



各学習eポータル事業者の問い合わせ連絡先は「MEXCBT運用支援サイト」に記載していますので、参照してください。

<https://support2.mexcbt.mext.go.jp/contact/>